

和語・漢語・外来語

一 次の言葉の種類を、後のア～エから選び、記号で答えなさい。

① 言語

② 桑畑

③ レポート用紙

④ ポジティブ

ア 和語

イ 漢語

ウ 外来語

エ 混種語

熟字訓

二 次の平仮名の言葉を、漢字（楷書）で書きなさい。

① ことし

② えがお

③ みやげ

④ つゆ

（六月頃の雨の季節のこと）



文法―文節の対応

① 次の文には、不自然な点があります。読みやすくなるように、――線部を文節や連文節の対応を整えて書き直しなさい。

① 僕の将来の夢は、プロサッカーの選手になりたい。

② 妹はいつもわがママを言って、母に困らせる。

③ 来週までに決めなければならないのは、掃除当番と、花壇の水やり係を決めなければならない。

文法―意味のまとめ

② 次の□の中の文は、二通りの解釈ができます。へ、くの指示に従って、読点を打ったり表現を改めたりしなさい。

原さんは野村さんと大谷さんに機械の使い方を教わった。

① へ教わるのが原さん、教えるのが野村さんと大谷さんであるという意味に

② く教わるのが原さんと野村さん、教えるのが大谷さんであるという意味に

## 文法―呼応の副詞

三 呼応の副詞に注意しながら、文の意味が通るように、に当てはまる言葉を書きなさい。

① たとえ反対されよう

、わたしの意見は決して変わら

。

② まるで、絵画の

夕焼けが美しい。

③ もし、明日が雨

、試合は中止だ。

## 漢字チャレンジコーナー

①～④は——線部の読み方を平仮名で、⑤～⑧は——線部の漢字を楷書で書きましよう。

(⑤～⑧は送り仮名が必要な場合もあります。)

① 鶏舎にいる。

② 土地を分割する。

③ 遺言をのこす。

④ これはとんだ代物だ。

⑤ むじゃきな子供。

⑥ ごうまんな態度。

⑦ 罪をにくんで人をにくまず。

⑧ お昼のきゆうけいをとる。



# 古文一枕詞

三 次の和歌で使われている枕詞に、——線を引きなさい。

① 春過ぎて夏来たるらし白たへの衣干したり天の香具山

② ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ

## 漢字チャレンジコーナー

①～④は——線部の読み方を平仮名で、⑤～⑧は——線部の漢字を楷書で書きましよう。  
(⑤～⑧は送り仮名が必要な場合もあります。)

① 亡き祖母の面影をさがす。

② この場所に来ると心が和む。

③ 彼女はだれにでも慕われる人だ。

④ 氏より育ち。

⑤ てさげかばんを持つ。

⑥ 部活動のこもんの先生。

⑦ それは目のさつかくだ。

⑧ 夕日にはえる街並み。

--	--	--	--	--	--	--	--

む

われる

文法—助動詞の意味

① 次の——線部の助動詞と同じ働き・意味のものを、ア～ウから選び、記号で答えなさい。

① この電車は間もなく発車するそうだ。

ア 今にも雨が降ってきそうだ。

イ 今年の夏は暑くなるそうだ。

ウ お菓子をもらった子供はうれしそうだ。

② 明日は雪が降るらしい。

ア 彼は男らしい人だ。

イ そのアイデアはすばらしい。

ウ ここには古代都市があったらしい。

古文—重要古語

② 次の古文は清少納言の「枕草子」の一部です。——線部の意味として正しいものを、ア・イから選び、記号で答えなさい。

① 春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて……

ア やつとのことだ

イ だんだんと

② ……霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火などいそぎおこして……

ア そうでなくても

イ 新しいものでも

## 文法―品詞の識別

三 次の――線部の品詞として正しいものを、ア・イから選び、記号で答えなさい。

① 道がわからない。

ア 形容詞

イ 助動詞

② 地図もない。

ア 形容詞

イ 助動詞

## 漢字チャレンジコーナー

①～④は――線部の読み方を平仮名で、⑤～⑧は――線部の漢字を楷書で書きましよう。

① 秘密を暴露する。

② 出来事を克明に説明する。

③ 委員が罷免される。

④ 荘重な音楽が流れる。

⑤ この作品は文学史上のけっさくだ。

⑥ 抽象的ながいねんを説明する。

⑦ 路線がはいしされる。

⑧ その計画はあまりにむぼうだ。

--	--	--	--	--	--	--	--



古文—重要作品

一 次の①～⑤は古文作品の一部です。作品名と、作者が明らかかなものは作者名を答えなさい。

①「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。…」

作品名  作者名

②「夏は夜。月のころはさらなり、闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。…」

作品名  作者名

③「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人とすみかと、またかくのごとし。…」

作品名  作者名

④「つれづれなるままに、日暮らし、硯に向かひて、心にうつりゆくよしなし事を、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。…」

作品名  作者名

⑤「今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。…」

作品名

四字熟語

二 次の熟語の  に  から言葉を選んで書き、四字熟語を完成させなさい。

① 一朝 ……ほんのわずかな時日。

② 前代 ……今までに聞いたことがないような珍しいこと。

③ 自賛 ……自分で自分のことをほめること。

④ 晩成 ……大人物は大成するのに時間がかかること。

自画 未聞 日進 一夕 万来 大器

## 漢文―書き下し文

三 次の漢文は「論語」の一部です。書き下し文に直し、漢字（楷書）と平仮名で書きなさい。

学<sup>ビテ</sup>而<sup>ニ</sup>時<sup>フ</sup>習<sup>コレヲ</sup>之<sup>、</sup>不<sup>ザ</sup>亦<sup>また</sup>説<sup>よろこ</sup>一<sup>バシカラ</sup>乎<sup>や</sup>。

有<sup>下</sup>朋<sup>リ</sup>自<sup>よ</sup>二<sup>リ</sup>遠<sup>二</sup>方<sup>一</sup>来<sup>上</sup>、不<sup>二</sup>亦<sup>シカラ</sup>樂<sup>一</sup>乎。

## 漢字チャレンジコーナー

①～④は——線部の読み方を平仮名で、⑤～⑧は——線部の漢字を楷書で書きましよう。

① この服のデザインは斬新だ。

② 反物を買う。

③ 名簿を作る。

④ 真摯な態度を示す。

⑤ 歳末助け合いのぼきんをする。

⑥ この問題はいぜんとして解決していない。

⑦ 何事もきそが大事だ。

⑧ 情報をひとくする。

--	--	--	--	--	--	--	--